

13	豊橋	豊橋市立南稜中学校	キド ケンノスケ 名前 木戸 健之介
分科会番号	3	分科会名	社会科教育（小学校）

地域の「人・もの・こと」と関わりながら追究することで、
地域に対する愛着を高め、地域の未来を考えようとする子の育成
—4年社会科「ノリに乗ってる牟呂の海苔！だったのに…～牟呂の海苔養殖と豊橋港の開発～」の実践を通して—

1 主題設定の理由

本学級の児童は、身の周りの社会的事象やそこに関わる人々の働きに対して関心が高い。環境センターの職員による出前講座やごみ収集車の作業体験では、ごみ収集の仕組みやそれに携わる人々の働きを理解するとともに、自分にとって身近な社会を支える人々の価値に気づくことができた。また、校区に関するアンケートでは、ほとんどの児童が、「牟呂はよいところだ」と回答し、多くの児童が身近な地域社会に対してある程度愛着をもっていた。一方で「牟呂のよいところは」という質問に対しては、「コンビニや公園がある」のように他地域にも当てはまる回答が多く、牟呂の具体的な特色や発展の経緯を知らないという実態がわかってきた。

学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」に関する目標について、第4学年では「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う」、「思考や理解を通して、地域社会に対する誇りや愛情、地域社会の一員としての自覚を養う」とあり、児童が地域社会に対する愛着を高め、自らの学びを社会生活に生かそうとすることが求められている。これらの児童の実態や学習指導要領を踏まえて、地域が発展してきた経緯や先人たちの努力を教材化することで、児童が地域への愛着をさらに高め、よりよい地域の在り方を考えようとする児童を育てたいと考えた。

以上のことから、本研究主題を「地域の『人・もの・こと』と関わりながら追究することで、地域に対する愛着を高め、地域の未来を考えようとする子の育成」と設定し、研究を進めていくことにした。

2 研究の構想

（1）目ざす児童像

地域の発展に貢献した先人たちの努力や思いに迫り、地域に対する誇りや愛着を高め、よりよい地域の未来を考えようとする児童

（2）研究の仮説

仮説1 地域の発展について教材化し、自作資料や体験・見学活動を取り入れることで、先人たちの努力に迫り、地域への誇りや愛着をさらに高めることができるだろう。

仮説2 取材を通して先人たちや地域住民の思いに迫り、過去と現在のよりよい牟呂の未来について価値判断する場を設定することで、よりよい地域の未来を考えようとするだろう。

（3）研究のてだて

【仮説1に対するてだて】

1－① 一人調べに活用できる自作資料の提示

牟呂の海苔養殖の発展や豊橋港建設の経緯についての自作資料を、タブレットのteamsのファイルで問いの種類によってカテゴライズして提示する。また、地図や年表のワークシートを用意する。

1－② 先人の努力や苦労を実感する体験・見学活動の設定

神野新田資料館や郷土資料室を見学したり、海苔養殖の道具を体験したりする場を設定する。

【仮説2に対するてだて】

2－① ゲストティーチャーや地域の人々の思いを聞く・調べる場の設定

海苔養殖の経験がある住吉さんや丹羽さんの話を聞く場を設定したり、資料で提示したりする。また、未来の牟呂がどうなってほしいか家族や地域の方にインタビューする活動を設定する。

2－② 牟呂の地域の在り方について価値判断する場の設定

豊橋市長や牟呂の漁民の思いを根拠にして、豊橋港建設を受け入れた牟呂の漁民たちの選択の是非について話し合う場を設定する。その上で未来の牟呂の在り方について考える場を設定する。

(4) 抽出児について

A児は、社会の学習においては、人と関わりながら調べ学習をしたり、気になることを積極的に質問したりすることが得意である。また、牟呂校区に対して好意的にとらえているものの、具体的に何が好きかという部分ははっきりしておらず、「なんとなく好き」と答えている。また、牟呂が発展してきた経緯や歴史については全く知らない状態であった。本研究で、地域の人・もの・ことに対して積極的にかかわりながら追究を進め、先人たちの努力や思いに迫ってほしい。そして、先人たちの思いや決断の上に現在の牟呂が成り立っていることに気づき、先人たちと同じように、地域の一員としてどんな牟呂にしていきたいか考えようとする姿に期待する。

(5) 教材について

本単元では、牟呂校区の発展に寄与した海苔養殖と豊橋港建設について取り上げ、地域を発展させてきた先人の働きや思いについて学んでいく。牟呂では、古くから漁業を中心に生活が営まれてきた。特に芳賀保治が始めた海苔養殖の発展は目覚ましく、全国一位の生産量を誇っていた。同時期、豊橋市の河合陸郎市長は、牟呂の沿岸部に豊橋港を建設し、東三河一帯を発展させる計画を立てた。牟呂の漁民たちは反対したが、海苔養殖を続ける困難さや豊橋港建設に対する期待もあり、葛藤しながらも最終的に漁業権を手放したことで牟呂の漁業は姿を消していった。一方で、豊橋港の整備により工場などが誘致され、牟呂は大きく発展し、現在に至っている。牟呂の漁民たちの思いや葛藤を実体験や地域の人との関わりを通して追究し、牟呂に対する誇りや愛着をさらに高めるだろう。そして先人たちの努力や葛藤の上に成り立った牟呂だからこそ、より良い牟呂の未来を考えようとする意識が芽生えたと考えた。

(6) 単元構想図

単元名「ノリに乗ってる牟呂の海苔！だったのに…～牟呂の海苔養殖と豊橋港の開発～」

単元前の子ども

身の回りや地域の社会的事象、それに携わる人々の働きに目を向け、今の自分たちの生活が社会の仕組みやそこで働く人々によって支えられていると気づき始めた子ども

身の回りの昔のものを調べてみたよ「掘り起こし」

総合 わたしたちの校歌

学級活動 身の回りの古いもの

- ・牟呂小の校歌は1962年に完成したよ
- ・「豊かな実り海の幸」という歌詞は昔の牟呂の様子を表しているらしいけど今と違う気がする
- ・家や牟呂小には古い物がたくさんあった
- ・郷土資料室には昔の地図や写真がたくさん置いてあったよ
- ・漁業で使う道具が多いのは为什么呢

- ・昔の牟呂は今と違うのかな
- ・昔の牟呂がどうなっていたか気になるな

第1時 てだて1ー①
自作資料の提示

第2時 てだて1ー②
神野新田資料館の見学

問いを生む関わり合い

昔の牟呂校区はどんなところだったのかな 調①②関③

- ・ぼくの家は、昔は海の中だったと知ってびっくりしたよ
- ・牟呂校区のほとんどが海だったのは知らなかったよ
- ・写真を見ると海苔をたくさん作っていることがわかるよ
- ・1963年には海苔の養殖で日本一になったよ
- ・1979年の地図を見ると、堤防の外に工場や港がある
- ・今の豊橋港にはライフポートや船が泊まる場所があるよ

第4、5時 てだて1ー①
自作資料の提示

第6時 てだて2ー①
ゲストティーチャーの思いを聞く場の設定

- ・海苔の養殖日本一ってすごい
- ・売上げが7億4900万円もあった
- ・牟呂の海苔養殖は、どうして日本一になれたんだろう

第7時 てだて1ー②
海苔養殖の道具を扱う体験

どうして牟呂は海苔養殖日本一になれたんだろう 調④⑤⑥⑦関⑧

＜芳賀保治が始めたよ＞

- ・村長だった1893年、新田の壊れた堤防を見ていた時に偶然海苔を発見したよ
- ・自分のお金で養殖の試験をして、成功させたよ
- ・保治の熱意によって養殖をする人が増えて、1898年には25万坪の養殖場を始めたよ

＜たくさん作る工夫をした＞

- ・牟呂漁業組合を作って組織的に海苔の養殖をしたよ
- ・海苔の胞子を貝の中で育てる人工採苗ができるようにしたよ
- ・自動海苔すき機の開発や海苔網冷蔵保存技術によって、最初のころよりたくさん海苔を作ることができるようになったよ
- ・技術の進歩や協力が大切だね

＜海や漁業を守った＞

- ・六条潟で漁業をしたり、魚を売ったりする権利を守るために戦い続けてきたんだって
- ・海の恵みを守るために新田開発に激しく反対したこともあったよ
- ・1933年の人毛騒動では、海の環境を守るために、大きな工場を作ろうとした豊橋市と対立して、最後はあきらめさせたよ

＜海苔養殖は大変だけどがんばった＞

- ・住吉さんは、海苔は冬の海に入って取らなければいけなかったから大変だったんだって言っていたよ
- ・海苔を薄くのばして干すとおいしい海苔ができるけど、やってみたら難しかったから、当時の人たちのすごさがわかったよ
- ・よい海苔を作る技術や大変さがあったんだ

- ・芳賀保治の努力や漁民の海を守る戦いが海苔養殖日本一に繋がったよ
- ・でも、今の牟呂の海では海苔の養殖をやっているようには見えないな
- ・芳賀保治の努力や漁民たちの海を守る戦いが牟呂の海苔養殖日本一に繋がったよ

追究を見直す関わり合い

- ・海苔養殖が日本一になった理由はわかったけど、今の牟呂で海苔養殖はやってないよ
- ・昔海苔養殖をしていたところには、今は豊橋港やライフポート豊橋ができていますよ

- ・あんなに盛んだった海苔の養殖は、どうしてなくなってきてしまったのかな
- ・何か事情があって、海苔養殖をやめてしまったんじゃないかな
- ・河合市長が豊橋港を造ったことと何か関係があるんじゃないかな

第9時 てだて1-①
自作資料の提示

第10、11時
てだて2-①
地域住民の思いを知る
場の設定

日本一だった牟呂の海苔養殖は、何でなくなってしまったのかな 調⑨⑩⑪関⑫

＜河合陸郎市長が進めた豊橋港の建設＞

- ・豊橋港の建設で自由にのりをとれなくなったよ
- ・河合市長は豊橋の経済を発展させて人々の生活を豊かにしたかったよ
- ・豊橋に大きな工場を作るには、大きな船が泊まれる港が必要だよ
- ・河合市長は牟呂出身だから、豊橋市だけでなく牟呂の発展もちゃんと考えていたよ
- ・豊橋港ができて漁民が生活に困らないようにするために、何度も県や漁民たちと漁業補償について話し合ったよ
- ・港を造るために海を掘るから、海が深くなつてのりが作りにくくなっちゃったんだね

＜海苔養殖を続けられなかった漁民たち＞

- ・1967年に、漁業補償を受けて漁業権を放棄することを決めたから、牟呂の海で海苔の養殖ができなくなっていったよ
- ・海苔養殖のための冬の作業は、寒くてとても大変だったみたいで、ちがう職に期待した人もいたみたいだよ
- ・天候によって海苔の収穫量が左右されることがあって、不安定な収入は不安だったよ
- ・海や漁業を守った人から受け継いできていたし、やめたくない人も多かったよ
- ・環境が悪くなつてのりが作れなくなるのは困るから、反対運動がおこったよ

・漁業補償を受けて工事を認めるかについての最後の投票は、牟呂の漁民のうち賛成が667人、反対が90人だったんだって

- ・今まで守ってきたのに賛成のほうが多いのは意外だな
- ・牟呂の人たちは豊橋港建設に賛成したけれど、本当によかったのかな

核心に迫る関わり合い

今まで海苔養殖を続けてきたのに賛成してよかったのかな 調⑬関⑭(本時)⑮⑯

＜よかった＞

- ・作業が大変だったから続けられなかったよ
- ・とれないこともあって安定しないのは大変
- ・漁業補償でたくさんのお金が手に入るから、海苔養殖を続けなくても生活できるよ
- ・河合市長が何度も牟呂に話し合いに来てくれたから、牟呂のことを考えてくれていたよ
- ・港を造れば町が便利になって、人の生活が豊かになる未来を望んだよ

＜よくなかった＞

- ・日本一だからやめるのはもったいない
- ・今までだって牟呂の海をずっと守ってきたから、牟呂の海や漁業を守り続けるべきだよ
- ・海苔養殖を辞めたら仕事なくなる
- ・今まで続けてきた漁業を捨てるなんて、牟呂のことを考えていないし、裏切っている
- ・今までも、これからも、海苔養殖で牟呂が発展するから、やめない方がよかったよ

- ・未来の牟呂の発展や自分たちの生活がよくなることをみんなが願っていたよ
- ・豊橋港の建設に対して、牟呂の漁民たちはすごく迷いながら決断したんだね
- ・今までの牟呂の人たちの願いが今の牟呂に繋がっていたことがわかったよ

- ・地域の人に聞いたら今の牟呂も困っていることがあるって言っていたよ
- ・今までの牟呂を発展させた人みたいに、牟呂をよりよい町にしていきたいな

第14時
てだて2-②
牟呂の在り方について価値
判断する場の設定

第15、16時
てだて2-①
地域の人々の思いを聞く
場の設定

第19時
てだて2-①
地域の人々の思いを聞く
場の設定

第20時
てだて2-②
牟呂の在り方について
価値判断する場の設定

先人たちが大切にしてきた牟呂をどんな町にしていってほしいのかな 調⑰⑱⑲⑳

- ・今まで牟呂が大切にしてきたものを、これからも守り続けていきたいな
- ・人々の生活がよりよくなるように、安心して魅力的な町にしたいな
- ・牟呂に住んでいる人たちの考えを聞きながら、一緒に未来を考えていきたいな

- ・僕たち自身も先人たちの思いや努力を受け継いで、地域のためにできることをしていきたいな

単元後の子ども

地域社会の発展や維持に携わる人々の働きに気づいて地域に対する愛着を高め、人々の願いや努力と生活の向上を関連づけながらよりよい地域の未来を考えようとする子ども

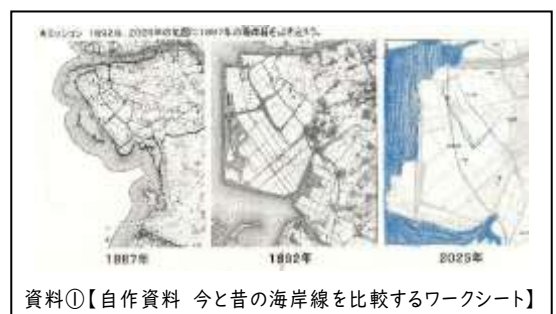
3 研究の実践と考察

(1) 身の回りの昔のものを調べてみよう(掘り起こし)

意識の掘り起こしとして、家庭にある一番古い物を持ってきて紹介し合う活動を行った。A児は振り返りに「みんな10年前とか40年前とか100年前とかそれ以上の人が多かった」と記述した。学級で感想を交流すると、牟呂小学校の郷土資料室に古い物があることに気づき、見学へ行った。さらに、牟呂小学校の校歌の歌詞の中で気になる場所を探し活動では、「海の幸」「潮風におう」という歌詞から、「今は海がないのにどうして海の幸なのか」という疑問が生まれ、A児は振り返りで「校歌にはいろいろな謎があるんだと知った」と記述し、牟呂校区の過去に目を向けた。

(2) 昔の牟呂校区はどんなところ? (第1～3時)

第1時では、1887年、1992年、2025年の牟呂の地図を比較するワークシート(資料①)を活用して、昔の海岸線を現在の地図に書き込む活動を行った。さらに、昔の海岸線が書き込まれた牟呂校区の地図に、自分の家をシール



資料①【自作資料 今と昔の海岸線を比較するワークシート】

で貼る活動を行った。A児は、活動の振り返りにおいて「意外と1887年のとき、牟呂はほとんど海だった」と記述し、昔の牟呂が海と関わりが深いことに気が付いた。

第2時では、神野新田資料館の見学に行った。見学の振り返りでA児は、「神野新田を作った人のことものについて、昔のものがとてもいっぱいあってすごい」と記述し、牟呂の先人の働きに目が向けた。

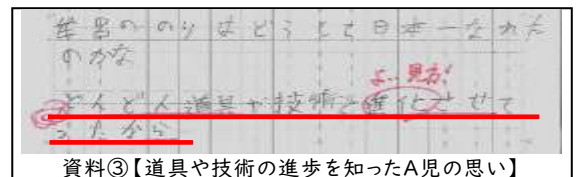
第3時では、神野新田資料館で学んだことについて交流した。「校歌に出てきた牟呂の海の幸は多分海苔のことだと思ふ」と児童が発言したところで、資料「牟呂の海苔養殖ってどんな感じ?」を提示した。(資料②) 資料を見たA児は牟呂の海苔養殖が日本一の売り上げだったことに気づき、「のりがいっぱいとれているから、干すために木をいっぱい使ったり、大量ののりを木の板に並べたりして大変だった」と記述し、海苔養殖に携わる漁民たちは大変だったと考えた。



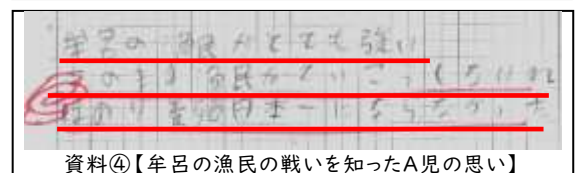
資料②【提示資料「牟呂の海苔養殖ってどんな感じ?」】

(3) どうして牟呂は海苔養殖日本一になれたのだろう (第4～8時)

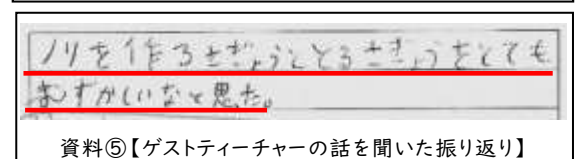
第4、5時では、日本一となった牟呂の海苔養殖の始まりや発展の経緯について、teams のファイル内の資料から自分の興味に合わせて資料を選択し、個人で追究する場を設定した。A児は、道具や技術が進歩してきた事実をつかみ、牟呂の海苔養殖が日本一になれた理由について、「どんどん道具や技術を進化させていったから」と記述することができた。(資料③) また、工場誘致に反対して豊橋市に対して激しく抵抗した漁民の様子をつかみ、「牟呂の漁民が強い」「そのまま漁民が抵抗しなければ海苔養殖が日本一にならなかった」と記述した。(資料④) 個人追究を通して、牟呂の海苔養殖が日本一になった要因が複数あったことを理解し、牟呂の漁民たちの努力に迫っていった。



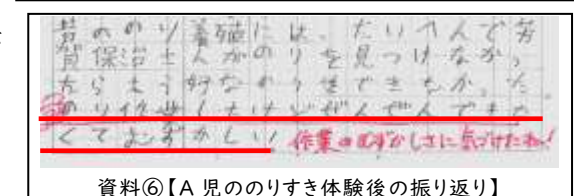
資料③【道具や技術の進歩を知ったA児の思い】



資料④【牟呂の漁民の戦いを知ったA児の思い】



資料⑤【ゲストティーチャーの話聞いた振り返り】

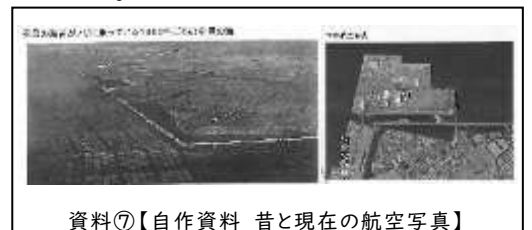


資料⑥【A児ののりすき体験後の振り返り】

第6時では、海苔養殖を手伝った経験のある、地域住民の住吉政浩さんと丹羽賢一さんに、当時使っていた道具の説明や、作業の大変さを語っていただいた。もともと、海苔養殖の作業が大変だったのではないかと考えていたA児は、振り返りで、「のりを作る作業ととる作業がとても難しいと思った」と記述し、ゲストティーチャーとの出会いから自らの予測が正しかったと確かめることができた。(資料⑤)

第7時では、ゲストティーチャーから道具の説明を受けたことで、「私たちものり作りをやってみた」という声が上がったことから、高げたで歩く体験とのりすきの体験を設定した。A児は体験後の振り返りで「のりの作業をしたけど全然できなくて難しい」と記述した。(資料⑥) 海苔養殖の作業の大変さや漁民たちの努力について、実感を伴いながら理解することができた。

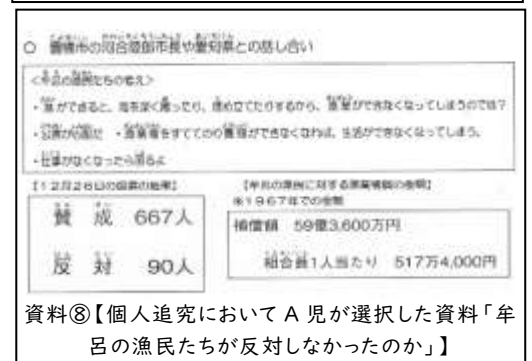
第8時では、牟呂の海苔養殖について調べて考えたことを交流する場を設けた。A児はこれまでの学びをふりかえって、「道具や技術の進化があったから牟呂ののりは日本一になった」と発言した。「日本一だったのに今の人たちが知らないのはどうして」という疑問が出たところで、1960年代と現在の航空写真を提示した。(資料⑦) 現在の牟呂では海苔養殖が行われていないことに気づき、「牟呂の海苔養殖は何でなくなってしまったのかな」という新たな追究課題が生まれた。



資料⑦【自作資料 昔と現在の航空写真】

(4) 日本一だった牟呂の海苔養殖は何でなくなってしまったのかな (第9～12時)

第9時では、牟呂の漁民が漁業補償をもらって漁業権を手放したことや、豊橋市の河合陸郎市長が豊橋港建設を推進したことを確認した。教師が「当時の人たちはどう思っていたのかな」と問いかけた。すると、第10、11時の個人追究でA児は、「牟呂の漁民たちは反対しなかったのか」(資料⑧) という資料



資料⑧【個人追究においてA児が選択した資料「牟呂の漁民たちが反対しなかったのか」】

4 てだての有効性と仮説の検証

(1) 仮説1に対して

資料⑭【てだて1によるA児の思考の変容】

自作資料の提示	体験・見学活動	A児のふりかえり・発言・話し合いの内容→考察・変容
第1時 昔と今の牟呂の地図（資料①）		「意外と1887年のとき、牟呂はほとんど海だった」 →昔の牟呂は今と違ってほとんどが海だったと気づいた。
	第2時 神野新田資料館見学	「神野新田を作った人のことのもつていて、牟呂用水のことのもつていて、横に金庫があって、昔のものがとてもいっぱいあってすごかったです」 →海との関係性はつかめていないが、牟呂の先人の働きに目を向けた。
第3時 牟呂の海苔養殖ってどんな感じ？（資料②）		「いっぱいどれているから、干すために木をいっぱい使ったり、大量ののりを木の板に並べたりして大変」 →海苔養殖に携わる漁民たちの仕事ぶりに注目し、大変だったと考えた。
第5、6時 牟呂の海を守るための戦い 海苔養殖の技術の発展 ※teams ファイル内より選択		「牟呂の海苔養殖が日本一になった理由はほとんど道具や技術が進歩したから」 「（豊橋市や工場に）そのまま漁民が抵抗しなければ海苔養殖が日本一にならなかった」（資料③④） →牟呂の海苔養殖が日本一になった理由について、道具や技術を進歩させたり、海を守るために戦ったりした先人の努力と結び付けて考察した。
	第7時 のりすき・高げた体験	「のりの作業をしたけど全然できなくて難しい」（資料⑥） →のり作りの苦労や先人のすごさを実感した。

仮説1に対するてだてによって、A児は資料⑭のように変容した。単元導入段階では、資料①牟呂の昔と今の地図を比較したことで、今とは違い、昔の牟呂はほとんどが海であったことに気づくことができた。その状態で資料②や牟呂の海苔養殖に関する資料を提示することで、牟呂の海苔養殖を発展させた漁民たちの仕事ぶりや作業の大変さに注目して追究の見通しを立てることができた。牟呂の海苔養殖についての個人追究では、資料⑧のように teams のファイルから自分で資料を選択できるようにしたことで、A児は自らの興味に合わせて追究を進めることができた。さらに、のりすき体験や高げた体験を通して、海苔養殖の難しさを実感する姿が見られた。自作資料による個人追究と見学や体験活動を通して牟呂の海苔養殖に目を向け、先人の努力やすごさに迫ることができたことから、てだて1は有効だった。そのため、仮説1は妥当といえる。

(2) 仮説2に対して

資料⑮【てだて2によるA児の思考の変容】

ゲストティーチャーや地域の人々の思いを聞く・調べる場の設定	牟呂地域の在り方について価値判断する場の設定	A児のふりかえり・発言・話し合いの内容→変容・考察
第6時 住吉さん、丹羽さんのお話		「のりを作る作業と作る作業がとても難しいと思った」（資料⑤） →ゲストティーチャーの思いから、自身の予測が止しかったことを確かめた。
第11、12時 牟呂の漁民たちは豊橋港建設に反対しなかったのか（資料⑧）		「取引で豊橋港ができあがって海苔養殖ができなくなり残念だった」（資料⑨） →日本一海苔養殖が衰退してしまったことや漁民たちの選択を否定的に捉えた。
	第13、14時 牟呂の漁民たちが豊橋港建設に賛成してよかったのか	「条件がお金でも反対する」（資料⑩） →自分だったらという視点で豊橋港建設に対する立場を示すことができた。 「みんなそれぞれ意見があっていいなと思いました」 「次は賛成した667人と反対した90人の理由を調べたい」（資料⑪） →豊橋港建設のよさを理解して建設に賛成した牟呂の漁民たちに目を向けるとともに、豊橋港建設に賛成した牟呂の漁民たちの思いを追究しようという思いを高めた。
第15、16時 河合市長の思い 建設賛成派の考え		「反対の人たちも河合さんを信頼していた」「豊橋港をつくってよかった」（資料⑫） →河合市長に対する牟呂の漁民の信頼や、豊橋港建設に対する期待を踏まえて、豊橋港建設を認めた漁民たちの選択を肯定的に捉えるようになってきた。
第19時 家族へのインタビュー		「家族に聞きたい」 →地域住民の声を取り入れながらよりよい牟呂の未来を考えようとし始めた。
	第20時 未来の牟呂はどうなっていたらいいか	「平和で豊かで自然が多くて楽しい町」（資料⑬） →地域住民の声を踏まえながら要素を付け加え、よりよい牟呂の未来を考えようとした。

仮説2に対するてだてによって、A児は資料⑮のように変容した。A児は、第6時で住吉さんや丹羽さんの話を聞くことで、海苔養殖の大変さを当時の人の思いから確かめることができた。「牟呂の漁民たちは豊橋港建設に賛成してよかったのかな」というテーマで、当時の人々の行動やその結果を価値判断する場を設定すると、A児は当時日本一だった海苔養殖の売り上げを根拠に「条件がお金でも反対する」と記述した。しかし、友達との関わり合いを通して「次は賛成した667人と反対した90人の理由を調べたい」と考え、その後の個人追究で建設を推進した河合市長や建設に賛成した漁民たちの思いを追究することで、先人たちの思いを踏まえて、当時の決断を肯定的に捉えた。さらに、未来の牟呂を考える段階では、家族へのインタビューを行い、よりよい未来の牟呂を思い描くことができた。このように、ゲストティーチャーや地域の人々の思いに迫り、過去と現在のよりよい牟呂の在り方を考える活動を通して、よりよい地域の未来を考えようとする姿が見られたことから、てだて2は有効だった。そのため、仮説2は妥当といえる。

5 今後の課題

本単元では、地域のよさや課題、特色を理解して具体的な町づくりの方策を考えたり、地域の未来のために今の自分ができることを考えて行動したりするような、主体的な姿は見られなかった。地域への愛着が高まり、地域の未来を考えはじめた子どもたちだからこそ、より主体的に地域に対して関わっていけるように育てていくことが、今後の課題である。子どもたちの主体的な学びを支えるために、一人一人との対話を通して個の興味・関心に応じた追究に対する支援のてだてを探り、実践に努めたい。